

《 建設部門 / 港湾及び空港 受験体験記 (一次～口頭) 》

一般論文は全く想定外の問題：恐らくギリギリ合格！

SUKIYAKI 塾 (以降、「当HP」という) の受験対策方法が有効であることは誰もが認めるところ。私も随分と活用させて頂きました。改めて当HPの支援者の方々に感謝々！ 最近、掲示板に少々書き込みをしていますが、これから受験される方に少しでもお役に立てればと思います、遅ればせながら受験体験記を投稿させて頂きました。

私の場合、老化現象も始まっていることから、当HPの対策法が有効と知りつつも処理能力が追いつかず中々実践ができなかったもの、誤って実行したもの等々、必ずしも効率的・効果的に実践できたわけではありません。人それぞれ得手不得手もありますし条件も異なります。要は、人の意見を参考にしつつ自分にあった方法でやるのが一番だと思います。

一般論文は恐らくギリギリで合格したと思いますので半面教師的な資料としても参考になると思います。また、「港湾及び空港」はマイナー科目のため参考書やHP等への掲載も少ないことから再現論文を添付しました。問題の傾向もだいぶ変わっていますが多少なりとも参考になれば幸いです。

体験論文の添付及び具体的試問内容については諸般の事情により割愛させて頂きましたのでご理解下さい。

・ 自己紹介

- ・ 名 前：かりゆし
- ・ 年齢、性別：二次試験受験時49歳、 ・ 草食系
- ・ 家 族：妻と子供2人
- ・ 職 業：公務員・・・現在、事務所の中間管理職
- ・ 出身地：関東某県(山間部)
- ・ 学 歴：某三流大学の建設工学科卒業
- ・ 業務歴：主に港湾・空港整備に従事。(港湾：空港：その他 = 7：2：1)
- ・ 土木系資格試験の戦績：4勝1敗 結構、強運の持ち主？
 - ・ 測量士補(高2)・・・
 - ・ 測量士(高3)・・・ × 大学卒業後も申請せず
 - ・ 1級土木施工管理技士(42歳)・・・
 - ・ 技術士第一次試験(H19年度)・・・
 - ・ 技術士第二次試験(H20年度)・・・

注)我々公務員にとって、資格試験への挑戦はあくまで個人のスキルアップの一環です。

当然のことながら勤務時間中の受験勉強はNG。他の公務員の方も同様だと思います。

．技術士試験へのいざない

- ・若かりし頃　：資格取得に全く興味なし。
　　給与・人事面に全く関係なし。“オイラには関係ないもんねー”と
　　いったところが素直な気持ちだったでしょうか。
- ・第一次遭遇（H9）：大先輩が技術士取得。非常に刺激を受けたが実力不足は否めない。まずは1級土木からチャレンジすることにしたが、指導的立場での現場経験年数不足から受験できないことが判明。後で考えれば真面目に考えすぎていたのだが、それ以前の問題として半徹・完徹、休日出勤が常態化している状況で受験もないだろうと自己弁護に走る始末。そのうち受験熱も冷める。
- ・第二次遭遇（H13）：1歳上の先輩が技術士取得。発注者側も技術士資格を保有すべきとの気持ちもあり密かに書店で参考書を斜め読みしところ、数学や物理などの共通科目があることを知り愕然。逆立ちしても合格できないと思い受験を断念。某国立大出身の先輩に脱帽。脳ミソのつくりが違うんだらうなーと・・・。
- ・第三次遭遇（H19）：上司（本庁S部長）から“発注者も技術士資格を取るべし！”との大号令があり管理職が率先して受験する雰囲気。この時初めて共通科目が免除になることを知り、もう少し若いうちに受験しておけばよかったと悔やむ。

～・・・～(技)・～・・・(術)・～・・・(士)・～・・・(1)・～・・・(次)・～・・・

．技術士第一次試験（H19年度試験）

1) 合格までの道程（受験勉強期間：約3ヶ月）

- ・6月下旬：基礎・適性科目の参考書^{注1)}を購入。前年度（H18）の試験問題を解いてみたが基礎科目がネックになりそうだ。各群3問解答の縛りが恨めしいとボヤキつつ、まだまだ時間はあるし“予想問題が大外れしなければなんとかなるんじゃない”との甘い考え。
- ・7月初旬：7月に入っても中々受験モードに入らない。基礎科目が難解、ついつい参考書から遠ざかってしまう。仕事を家に持ち帰ることはあっても受験勉強には馴れていないのだ。
- ・7月10日：スキルアップ講習会（一次試験対策）を契機に、ようやく受験モードのスイッチが入った。
 - ・体系的に勉強するのは非効率なため過去問と練習問題を解いて、重要事項をペーパーに纏める方式を実践することに。時間のない時には纏めたペーパーを眺めるだけでも効果あり。　纏めた資料は最終的に、適性科目：1枚、基礎科目：10枚程度、専門科目：10枚程度になった。
- ・9月下旬：途中、中だるみはあったものの概ね3ヶ月間勉強した。平日は早朝や昼休み時間を有効活用し土日に集中的に勉強した。

- ・試験前日(10/7): 基礎・適性科目の予想問題を1セット実施。基礎11問、適性15問正答。自信をもって試験に臨むことができた。
- ・受験対策として解いた問題数は概ね以下のとおり。1回目は一応全問解答(どうしても解らないものはパス)、2回目は非効率な問題はパス(過去問は試験と同様にパス)。2回目になるとさすがに正答率がアップ。同じ間違いもするが引き出しが多くなったと実感できた。

基礎科目、適性科目

- ・過去問4年分(H15~H18)、予想問題1年分 参考書・・・2回実施
- ・演習問題 各群10~20問(×方式)×5群 当HP・・・2回実施
- ・過去問1年分(H14) 他HP・・・1回実施

専門科目

- ・予想問題(参考書^{注2})30問×11分野・・・2回実施(応用問題は1回実施)
- ・演習問題(当HP)30問(×方式)×11分野・・・1回実施
- ・練習問題(他HP)10問×11分野・・・2回実施
- ・過去問題2年分,H17~H18(技術雑誌)・・・2回実施
- ・第一次試験(10/8): 各科目とも時間に余裕あり。
協会発表の正答表にて自己採点した結果、合格基準をクリア。マークシートの記入ミスがなければ合格。
- ・12月26日: 一発合格! 適正14点(93%)、基礎8点(53%) + 専門40点(80%) = 48点(74%)

2) 受験して感じたこと エピソード・雑感

一次試験のハードルは意外に低い!

- ・基礎科目と専門科目は10問パスできる。
- ・得意科目で得点をかせげる(基礎科目と専門科目はリンクして評価)
基礎6点(40%=6問) + 専門28点(56%=14問) = 34点(52%)でOK!
専門20点(40%=10問)だと、基礎13点(87%)が必要。
満点を取る必要なし。合格すれば何点でも同じ。

外部講師の発言に奮起!

- ・スキルアップ講習会を受講。当然勤務時間外、講師は既技術士(職員)2人と外部講師1人(ゼネコン時代に技術士取得)。外部講師への謝礼等のため有料。
- ・外部講師の講義の中で基礎科目の演習問題を何問かやらされたが中々解けない。
“今日から毎日2時間、土日は朝から晩まで集中して勉強すれば貴方でも合格できるかもしれないよ”と言われた。残業はあるし、飲会もそうそうパスできない、家族のことも考えるとあまり時間はかけられない。そもそも長時間の勉強には耐えられないのだ。
- ・“スタートが遅いよ”という意味か“おまえ如きが技術士を目指そうなんざ100年早えーんだよ!”と言われたのか解らないが俄然やる気がでた。絶対にストレートで合格してみせる! これこそが外部講師の真の狙いだったのかなー。

- ・ちなみに、私には職場の先輩技術士の体験談の方が遥かに有意義であった。当HPの存在も教えてもらったし・・・。

書店から専門科目の参考書が消える！

- ・講習会の翌日に慌てて書店に走ったが既に専門科目の参考書がない。地方都市だとこんなもんです。日程も押し迫っていたので後輩から参考書を一時借用、問題集の部分をコピーさせてもらった。こういう輩がいるから老舗の工学系出版社でも倒産するのだ。ゴメンねー・ゴメンねー。

後日談：しばらく経ってから書店で専門科目の参考書を多数発見！ 今頃買う人いるの？ 一時的に需給バランスが崩れたことが要因だと思いますが、本屋さんもう少し考えて注文すべきですね。

専門科目は主要3分野を重点的に勉強せよ！

- ・主要3分野（土質・基礎、鋼・コンクリート、河川・砂防・海岸）で約半数が出題される（H19試験では16問＝46%出題）ため主要3分野を重点的に勉強するのが効果的と言われているが、参考書の練習問題数は分野に関係ないため、結果的にどの分野もほぼ均等に勉強することに。

本番では、主要3分野でパスが多く、その他の部門のほとんどを解答する羽目になった。幸い主要3分野で8問正解／8問選択、3問出題の分野は5問正解／7問選択、2問出題の分野は7問正解／10問選択であったが、やはり主要3分野は重点的に勉強すべきであると再認識した。

なんで正答が2つあるの？

- ・「もっとも不適切なものはどれか？」という設問。なぜか不適切な答えが2つある。さて、素直に解答してよいものか出題者の意図を深読みする。たまにこういう悩ましい設問がある。試験直後には当HPでも激論が交わされていますね。

自分にあった解答方法で！

「最初に全問を斜め読みして問題を分類し（即答、少し考えればできる、考えたら解けるかも、×解けそうにない）、簡単な問題から回答、最後にマークシートに記入」という当HPの解答方法を自分のやりやすいようにアレンジして実践。時間短縮もでき間違いも少なく非常に効果的であった！

“ふりがなを未記入だと失格！”ってほんと？

- ・当HPの掲示板で“ふりがなが未記入だと失格！”の書き込みを見て急に不安になる。“ふりがな”を何故記入させるのかという理由を考えれば大勢に影響はないと思いつつ一抹の不安は残る。
- ・受験番号等の記入ミスや選択問題数の超過は「失格」。マークシートの記入ズレにも十分注意したはずである！ 何でふりがななんだよ!?

ナメたらいかんぜよ！

- ・我が社では14人が受験し13人が合格した。今年は建設部門全体の合格率が約50%と非常に高く(H15・H16並み)問題が易しかったという意見が多かった。
- ・周囲では受験勉強は1ヶ月程度が多数派。中には1週間しかやっていないという輩までおり、同じ試験の合格者としては釈然としない思いをした。
- ・“一次試験如きは地力で楽々クリアできる”という意見も耳にしたが、大多数の受験者は必死に勉強して勝ち取っていると思う。元々地力がある方もしっかり勉強をすることで更なる高みを目指す気概が欲しい。“一次試験といえども技術士試験をナメたらいかんぜよ！”

注1) 「技術士第一次試験 基礎・適性科目対策」、秀和システム、山口潤一郎著

- ・ 過去問題(H15～H18) H19予想問題 用語集・技術士法等 正答・解説編で構成。正答・解説編が分離できて便利。

注2) 「建設部門予想問題集」、中部地区技術士試験受験研究会編、山海堂

- ・ 技術士制度 テキスト編 予想問題編 解答解説編で構成。
- ・ 予想問題は各分野ごとに「重要問題10問」「やや重要問題10問」「応用問題10問」

～．．．．．(技)．．．．．(術)．．．．．(士)．．．．．(2)．．．．．(次)．．．．．

．技術士第二次試験(筆記試験)(H20年度試験)

1) 合格までの道程(準備期間:約3ヶ月(一般2ヶ月、専門1ヶ月))

- ・4月24日:スキルアップ講習会(二次試験対策)。講師は全て職員(既技術士)夜7時過ぎからの開催だったが仕事の都合で受講できず資料だけ頂いた。経歴表の書き方や勉強の仕方など大変参考になった。
- ・4月下旬:二次試験の参考書^{注3)}を購入。
港湾の論文事例が掲載されていたため購入したが若干古くて参考にならず、5月中旬に別の参考書^{注4)}を購入。
- ・GW:受験勉強開始。当HPのスケジュール事例では2月頃から“一般論文対策は前年度白書部を中心に勉強、専門論文対策は専門知識の体系的整理や知識補充”とあった。
完全に出遅れ! 体系的な勉強はせずに模擬問題による論文作成トレーニングのみを実践することに。
まずは普段の仕事に直接関係しない一般論文対策から実施。とりあえず3課題を想定(災害に強い国づくり 地球温暖化対策 H19版白書部テーマ(この時点で未公表)) 結果的にはテーマが重複したため2課題とした。
- ・GW明け:願書郵送。選択科目は「港湾及び空港」、専門とする事項は手引きの分類から「港湾施設」で出願。
災害関係の資料(前年度国土交通白書部、防災白書等)の読み解き及び骨子作成。

- ・ 5月中旬：H19年度版の国土交通白書 部をダウンロード。 部テーマの地球温暖化を優先して勉強することに。先ずは国土交通白書や環境白書、関係資料を読み込んでポイントを整理。 一般論文に時間をかけ過ぎた。(大反省)
- ・ 6月下旬：専門論文対策として3課題を想定(日本経済の活性化を図るための港湾政策 港湾における地球温暖化対策 大規模地震対策)
大規模地震対策は一般論文としても準備(骨子のみ)
- ・ 試験1週間前：数日前から全体の見直しや的を絞った勉強(おさらい)をするとともに、トピックスや参考書のキーワード表にも目を通す。
- ・ 第二次試験(8/3)：必須科目の試験開始と同時に会場がどよめく。撃沈！建設一般は見事に予想を外した。選択科目は1問ビンゴ、もう1問はかすった感じ。
1日の試験で心身ともにボロボロ、流石に筆記試験はきつい。
- ・ 10月27日(合格発表)：一発合格！
一般論文は内容もさることながら記述ボリューム不足のため完全に諦めていたが・・・。

2) 受験して感じたこと エピソード・雑感

能力ないなー!?

- ・ 日経コンストラクション(2008.5.23号)に「2ヶ月で論文作成トレーニング！」というのが掲載されていた。6月～7月で一般論文3課題、専門論文を最低3課題×3通り、合計12論文やれば合格できるというもの。1論文を一週間以内で作成するのは私には絶対無理だ！一方で、試験当日は2時間程度で作成するのかと思うと自分の能力のなさが悲しくなる。
- ・ 某国立大出身の同僚は早々に10テーマくらい作成したらしい。だぶん、いや絶対に脳みその造りが違うんだと思う。
後日談：この同僚は残念ながら不合格。優秀な者でも不合格になる。幸い私は合格したが、ほとんどの者が僅かな差で合否を分けていると思う。

「ヤマかけ定食」にしてください！

- ・ 筆記試験が最大の難関！絶対評価といいつつ(相対評価と断言する方もいる)過去の傾向から上位2割に入らないと筆記試験を突破できない。
- ・ 誰もが準備するテーマ(一般論文の白書 部など)ではどうオリジナリティーを出すか、予想が分散するテーマではどうヤマを張るかが合否の分かれ目といっても過言ではないと思う。
- ・ 網羅的に骨子を作成しておくのがよいと分かっている私も長期間の受験勉強に耐えうる器ではなく、また筆記試験で要求される論文形式にも馴れていないことから、予想問題を少数設定した模擬論文作成トレーニング(時間に余裕があればテーマの幅を広げていく)で勉強することにした。
- ・ 準備期間と実力不足から一般論文2テーマ、専門論文3テーマ、プラス(参考書のキーワード表や骨子まで作成したテーマ)で試験に臨むことにした。「今年は様

子見、ヤマが当たればラッキー」程度の楽な気持ちで受験したつもりがいつの間にか結構プレッシャーがかかっていた。人は次第に欲がでる生き物なのだ。

論文構成は「起承転結」が基本！

- ・“問題点抽出と解決策の具体的内容が不十分になるなら「はじめに」や「おわりに」はない方がいい”という意見もある。実際、当HPには「はじめに」を記述せずに合格した方の論文が多数掲載されている。
- ・基本どおり「はじめに」と「おわりに」を記述した方が起承転結のストーリーを組み立てやすいと思うのだが。まあ、内容次第ですが・・・

自己添削で論文を練り上げる！

- ・第三者の添削が効果的と言われているが私は自己添削で論文を練り上げることとした。職場の既技術士の方も仕事が忙しく中々頼みづらい。それ以前の問題として論文の原案が仕上がるのが遅く第三者に依頼する時間がない。こういう状況から当HPの添削も活用しなかった。
- ・論文を3枚以内にまとめるのは結構大変である。必ず論文作成過程で圧縮作業がでる。削除した文章や骨子を残しておく口頭試験対策に活用できるということに後で気がついた。トホホ・・・ <反省>

「ヤマかけ定食」半食でした！

- ・H20年度試験の受験者の多くがそうであったように一般論文は全くの想定外の問題で四苦八苦。最後の2、3分は焦りも相まって手が震える始末!?
- ・選択科目はヤマをかけた成果があった。各論グループでは地球温暖化がビンゴ。若干切り口の異なるところもあったが時間の制約から準備していた内容でほぼ記述。総論グループと各論グループの線引きが曖昧になっているように思う。
- ・選択科目の総論グループは、スパ中政策の充実・深化 地方圏の港湾のアジア物流への対応策 から1問選択する問題。準備していた「日本経済の活性化を図るための港湾政策」から関係する部分を抜き出し、主要キーワードを基に構成を組み立てて問題用紙にメモ、肉付けしつつ直接解答用紙に記述した。またスパ中港湾への国内輸送の円滑な接続という切り口にして、地域の港湾の課題も記述。
- ・一応「ヤマかけ定食」を食べることができたんでしょうかね？

家族の理解が必要！

- ・子供が中・高生のため休日に勉強し易かったのは救いだった。
- ・受験料、交通費、技術士登録料とトータルでは結構お金がかかる。特に口頭試験は地方在住者にとって負担が大きい。その分だけプレッシャーもかかる。公務員の場合、資格手当がないため経費は全て持ち出し。リタイヤ後もしばらくは資格を活かした仕事には就けないし・・・。

歳とともに衰える！

- ・論文の編集・修正はワープロの方が効率的であるが、漢字対策も兼ねて、骨子の構築や文章作成、解答用紙への書き込みなど手書きに慣れる練習をした。
- ・凡人は50歳くらいになると記憶力や思考力の衰えが顕著になる。漢字が思い出せない、新しいことが中々覚えられない、集中力が持続できない・・・等々、あーあ情けない！歳は取りたくないものである。(娘の友達が覚えられないのは私だけ？)
- ・技術士試験にチャレンジすること自体がスキルアップになる。普段の業務に直接関係ないことも勉強するので技術者としての幅も広がる。刺激になるよねー。当然、老化防止の効果も・・・。
- ・もちろん技術士試験に合格することがゴールではない。合格して初めて技術者としての再スタートが切れるのだ！

火事場の糞力！

- ・一般論文は地球温暖化でもなければ災害対策でもなく「アセットマネジメント」と「技術の伝承」。全く準備していないテーマのためしばし絶句。どちらで書いても2枚程度が限界か？悩みぬいた結果、アセットマネジメントを選んだが、解答テーマの選定段階で相当の時間ロス！<反省>
- ・先ず主要キーワードを箇条書き・骨子検討、次に「まえがき」と「あとがき」の文章を作成。問題用紙のメモを基に肉付けをしながら解答用紙に文章を記述した。
- ・僅かな記憶を必死に呼び覚ます。技術雑誌や新聞記事が断片的にイメージとして脳裏に甦る。記憶の糸口を必死に手繰り寄せる。“去年、米国で鋼橋の崩落事故があったよね”、“たしかミネソタ州だったかなー”、“設計ミスだったよね。冬季に塩を撒いていたことも要因”、“木曾川大橋でも鋼材の破断が見つかったよね”等々。
- ・リプレイサブル棧橋など肝心の箇所がぼやけて思い出せなかったりするが、ページを捲るようにイメージとして浮かんでくる。誤って刷込んだ記憶も多いが人体の不思議さを改めて垣間見た気がした。火事場の糞力ってあるんだなー。
- ・最後まで頑張ったが所詮糞力、ボリューム不足は否めず不合格を覚悟。次回チャレンジする際の糧とするため、気持ちを切り替え午後の選択科目も頑張ることに。

時間がない！

- ・予想問題を外した場合、間違いなく時間との戦いになる。
- ・良かれ悪かれ解答するテーマを早く決めて、骨子をよく考えてから解答用紙に記述した方がよい。急がば廻れである。解りきったことではあるが焦りと不安から実践できない。<反省>
- ・骨子を煮詰める前に記述したので書きながら思いつくことも多かった。後で気が付くと修正が大変になる。
- ・当たり前だが差込編集ができない。一般論文では解決策の記述途中で課題を1項目思いついた。加筆しないと3枚に届きそうにない雰囲気。やむなく数行を消して加筆修正。唯でさえ時間がないのに非効率なことをやってしまった。

- ・課題や解決策が中途半端になったが残り時間を逆算して「おわりに」を書き始めた。最後の2～3行は手が震えて字が躍ったが解答用紙に記述する前に問題用紙に「おわりに」をメモしておいたのが功を奏し、何とか論文の形になった。

口頭試験に向けた準備は一切していないが・・・。

- ・合格発表の日、一緒に受験した上司から“この番号は君じゃないか？”と言われた。帰宅後、受験番号を確認、まさかの一発合格だ！上司も合格したため今後の関係が悪化しなくてほっとした!?

論文は量より質！

- ・従来から“最低でも2枚半以上書かないと不合格だよ”ということが実しやかに言われていた。実際、何回か同様の書きを目にした記憶がある。
- ・一般論文は全く想定外の問題だったことから3枚目の2～3行しか書けなかったがそれでも合格した。どこが評価されたのか解らないが、確かなことは“量より質”ということ。
- ・私の一般論文は恐らくボーダーライン上だったと思う。再現論文を添付したので“こんなレベルでも合格できるのか”と思う方も多いと思う。しかし、凡人には白紙（全く準備なし）の状態から2枚半以上記述するのは至難の技！量を求めるあまり内容のないものを無理矢理記述するとかえってマイナスになるのではないだろうか？

注3)「技術士第二次試験 建設部門」、中田浩治・青山芳之共編、オーム社、H19.5 初版。2,940円

注4)「2008年版 技術士第二次試験 建設部門 合格指南」、日経コンストラクション編、日経BP社、H20.3 初版。2,940円・・・お勧め本です。

・技術士第二次試験（口頭試験）(H20年度試験)

- 1) 合格までの道程（体験論文作成：2週間、口頭試験対策：約1ヶ月）
 - ・10月27日（筆記試験の合格発表日）：体験論文のテーマを検討。
 - ・参考書^{注4)}と当HPの体験論文の書き方と論文事例を参考に作業開始。
 - ・11月4日：スキルアップ講習会（体験論文・口頭試験対策）。
 - ・体験論文の作成作業も佳境だったが無理をしても受講してよかった。
 - ・口頭試験の試問を念頭に体験論文の記述内容の根拠を整理。体験論文も自己添削で練り上げた。
 - ・11月10日：体験論文提出（〆切日に郵送）
 - ・筆記試験の論文再現、想定問答作成。ICレコーダーを活用した口頭試験対策。先輩技術士や当HPの模擬面接は活用しなかった。
 - ・12月10日：口頭試験。前夜に東京へ移動。全般的に和やかな雰囲気のためついつい余分な説明やよく考えずに即答してしまうことも。<反省>

- ・手ごたえはあったが4人に1人は不合格という現実を考えると不安。
- ・3月6日(合格発表):一発合格!

2) 口頭試験(試問内容)

試験場所: 渋谷・フォーラムエイト

試験時間: 35分~40分くらい(約5分遅れで開始 所要時間は未計測)

試験官: 3名 A氏(コンサル風): 進行役、技術関係(メイン)

B氏(ゼネコン風): 技術関係(サブ、詳述業務の専門家)、技術士制度・倫理

C氏(文科省役人風): 殆ど質問なし

試問内容

(1) 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力について

<経歴と受験動機>

Q: あなたの経歴と現在の業務を簡単に説明してください。(時間指定なし)

経歴で説明した代表的な業務(体験論文以外)については質問なし。

Q: 今まであなたが発表した論文はありますか?

発表論文なし。土木学会年次学術報告会、学会賞のプレゼンあり。

Q: 取得済み又は取得予定の特許はありますか?

Q: 受験の動機をお聞かせください。

Q: あなたの組織では特別に試験対策をしているか?(職場で3人受験したため?)

丁寧に回答してしまい時間ロス!

<体験論文>

Q: 体験論文の内容を10分以内で説明して下さい。(詳述業務のみ or 両方説明してもよい)

Q: 体験論文のテーマを選んだ理由は?

(全く毛色が違うけど、この組み合わせは面白い選択だね)

Q: 略記業務で特に大変だったところは?

・更問: 地域の特色を何か盛り込んだのか?

Q: 詳述業務の課題・問題点と解決策(提案)の内容を掘り下げて質問。

(ちょっと雑談っぽい感じの質問もあった)

事前の査読で疑問点があったらしく「そういうことですか、どうしてこうなるのか解らなかつたなー」と納得していた。

施工ステップ毎の耐波安定波浪条件(波高・周期)などを数値を示して説明。

Q: (文科省役人風): 整備効果はどのくらい?

Q: 詳述業務の提案は全てあなたの提案なのか?

・更問: 技術士として最も相応しいと思う提案はどれか? またその理由は?

・更問: 他の同種事業を参考にして提案したのか?

海外の某事業の特徴を雑談的に聞かれる(RC構造、大水深、潮流が早い)

(2) 必須科目及び選択科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識について

Q: 専門論文でSPA中を選んだ理由は?

(あなたには地域の港湾を選んで欲しかったが…)

Q: 港(現在の私の所管港)の現状と将来展望は?

Q: 事業(管内他港)は今後どうすべきだと思いますか?

Q: 一般論文について、付け加えたいこと、強調したいところがあれば何う

一般論文は想定外の問題であったためボリューム不足。筆記試験の論文は評価済みであるが、筆記試験以降のフォローやレベルアップを確認?

Q: 世界的な金融クライシスで雇用状況が悪化しているが土木技術者としてどう考え、何をすべきと思うか?

(3) 技術士としての適格性及び一般知識について

Q: 何故、技術士制度があると思うか?

Q: 倫理に関して日頃から心がけていることは?

Q: 技術士法で定める義務・責務について説明してください。

Q: (文科省役人風) どのくらい勉強しましたか?

3) 受験して感じたこと エピソード・雑感

略記業務のテーマ選定が難しい!

- ・ 二次試験申し込み時に詳述業務のテーマは概ね決めていたが略記業務は全く未検討。詳述業務もさることながら略記業務をどうアピールするかが悩ましい。
- ・ 最近の業務では技術士に相応しいテーマが詳述業務と同一プロジェクトに集中していたため、同一プロジェクトから選定するとアピール度が小さいと判断。
- ・ 一方、古い業務で適当なテーマがあったが資料入手が困難で、かつ記憶も曖昧であり口頭試験の試問に耐える自信がなかったことから断念。
- ・ 余談だが空港分野で体験論文にしたい業務がいくつかあったが空港では書けないのが非常に残念であった。
- ・ 体験論文のテーマが願書に記載した専門とする事項に適合するか結構悩む。
- ・ 結局、詳述業務は大型海洋構造物の据付計画、略記業務は地元の港を題材にした補助教材作成に決定。 実際のタイトルはインパクトのあるものに工夫

口頭試験の準備はキリがない!

- ・ 筆記試験の論文再現とともに、記載内容の根拠、関連事項等を整理。 結果的に準備した内容は聞かれなかった。
- ・ 技術士の3つの義務と2つの責務はお約束の質問。項目だけでなく最低でも条文は覚えておいた方がよい。
- ・ 最近の災害、事故、トピックス、専門分野に関する動向等もある程度準備したが想定した質問は全くなし。自然体で対応するような質問にしているのだろうか?

4人に1人は不合格！

- ・建設部門全体では大体6人中5人は合格する。港湾及び空港は筆記試験の合格率が若干高い分？4人に1人が不合格になるため結構プレッシャーになった。
- ・口答試験で不合格の場合、筆記試験から再トライする元気はないなー。何が何でも合格するぞ！と気合を入れるが、知恵熱？でダウン。ここまで来たら体調管理が一番重要かもしれない。

夜の渋谷で迷子！

- ・試験の前々日は外せない飲会。試験直前の夜は貴重な時間だが、勉強ができないうえに体調管理に苦勞。落ちたときの言い訳にしようかと思ったくらいである。
- ・仕事の都合と希望便のチケットが取れず前夜に東京着。田舎者には夜の渋谷は迷路！ホテルが見つからず苦勞した。余裕をもって移動し、明るいうちに会場の下見をすべきである。

、 の配点は？

- ・体験論文に関する試問がほとんどであった。体験論文に関する試問及び関連事項の質問で 専門知識と見識も評価しているとしか考えられないですね。
- ・準備した質問はまず聞かれない。“備えあれば憂いなし”ですが・・・。

一步外に出た瞬間から後悔の連続！

- ・先輩諸氏から“試験会場から一步外に出た瞬間から後悔の連続だよ”と言われていた。帰りのエレベーターの中までは手ごたえを感じていたが、フォーラムエイトの建物から一步外へ出た瞬間から、“何であんな解答をしたのだろうか。もっと気の利いた解答も出来たのに・・・”等々、急に後悔と不安に苛まれる。

(P.S)技術士試験にストレートで合格することが一番ですが、試験に向けたプロセス努力が重要なのだと思います(よい論文作成と合い通じますね)。仮に1回で合格できなくても受験したことで必ずスキルアップに繋がっていると思います。この体験記が受験者の皆様に少しでも参考になれば幸いです。

余談ですが、当HPの多くの支援者の方々への感謝を込めて、この体験記の文字数、行数とも「39(サンキュー)」で作成してみました。また、章構成については受験者の皆様の合格を祈念して最終章の口答試験を“(ビクトリー)”にしました。

最後に一言「成せば成る！」。吉報をお待ちしております。